

「第7回源泉かけ流し全国温泉サミット in 長湯」

2011年6月27日～28日に大分県長湯温泉で「第7回源泉かけ流し全国温泉サミット in 長湯」が開催されました。

サミットへご参加いただいた一般のお客様や観光客の皆様とともに日本源泉かけ流し温泉協会に加盟する源泉かけ流し温泉9地域の皆様が集り、「長湯温泉」が全国で初めて取り組んでいる「温泉療養保健制度」の取り組みについてなどの報告や、北海道大学名誉教授・医学博士阿岸祐幸先生の「ヨーロッパの温泉療法の現状」やモンゴル国際医科大学・札幌国際大学教授・医学博士・文学博士松田忠徳先生の「健康長寿時代における現代湯治の役割」などの講演を熱心に聞き入っていました。

源泉かけ流し温泉の普及と推進のための活動に協力することを確認し来年開催予定の福島県「高湯温泉」での再会を約束していました。

2011年7月1日 日本源泉かけ流し温泉協会

写真1：主催地大分県長湯温泉 伊東 義文 組合長の挨拶



写真2：松田忠徳教授の進行により開催されたフォーラムの様子

コーディネーター：松田忠徳教授

パネリスト：宮内祥子(榎ユーロスパ ジャパン代表取締役)・藤野博史(医療ジャーナリスト)・首藤勝次(竹田市長)



写真3：サミット終了後、壇上にて記念撮影する全国のサミット関係者

